



2025年5月10日発行

社会福祉法人 龍鳳ライフパートナーこぶし  
〒203-0004 東久留米市氷川台 2-31-19  
TEL:042-470-2385 FAX:042-470-2386  
清瀬事業所/ふわっとん  
〒204-0013 清瀬市上清戸 1-15-18  
TEL&FAX:042-497-9481  
<https://www.fukushiryuhoh.or.jp/kobushi/>

ようやく雨がやんで、桜の下でハイチーズ！



## 技術の発展

サービス管理責任者  
梶持 勇氣

昨今、AIの技術は急速に発展しており、私たちの日々の生活にも様々な影響をもたらしています。身近なところでいうと、スマートフォンが思いつくでしょう。音声や画像認識、言語翻訳など、「近くのラーメン屋さんを探して」「〇〇ってどういう意味？」など問いかけるとすぐさま回答を表示してくれます。

また、お掃除ロボットが流行り始めた20年近く前だったと記憶していますが、お手頃価格なお掃除ロボットを使用することがありました。障害物に当たると方向を変えて移動するのですが、段差に引っ掛かる、自動で充電器まで戻ることが出来なく迷子になるなど、ヒヤヒヤしながら見守りをせずにはいられない物でした。それが最新のタイプでは障害物認識はもちろん、何万という画像データから学習し、家電コードや靴下・スリッパなどを認識して回避しながら清掃を行い、掃除ルートなども学習するそうです。他にも様々な分野で想像もできないような活用がされているのを知ると、驚くことばかりです。

福祉の現場においてもAI技術やICTを取り入れた事例が多く聞かれるようになってきました。当法人においてはメールやチャットでの情報交換など、支援面でいえば、離床センサーでの見守り補助や、タブレット端末を使用している視覚的な提示など。特に

AI機能を取り入れたものというと、シフトの自動作成システムがあります。そういった技術は、上手く活用することで、業務効率化や支援面での安全性・質を高めるための力となると思います。

効率的になっていく一方で、特に福祉の分野では機械ではなく感情を持った「人」であるからこそ成り立つ仕事が多く存在しています。何より一番重要なのは直接的な対人支援の場面です。人との関わりのある生活の中でしか体験できないもの、学べないもの、感じられないものがあると思います。相手を思いやる気持ちや集団の中でのルールなど、100人いれば100通りの性格・特性があり、それぞれの考え方があります。時には人間関係でのトラブルなど、上手くいかないこともあるでしょうが、それは他に同じ人はいない自分だけの感情を持った「人」であるからこそ起こりうることであり、技術の進歩では代えのきかない部分なのだと思っております。

これから先、何十年と時が経てば、今では考えられないような技術の進歩があるのだと思います。もしかすると感情を完璧に理解できる技術が出来るのかもしれない。しかし、私たちの仕事は代替のきかない「人」であるからこそその仕事であることに誇りを持ち、自分や相手の気持ちを大切にしていきたいと思っております。

## Cafe ふわっとん 「氷川台マルシェ 開催です！」

※日時:2025年5月25日(日) 9:00~12:00

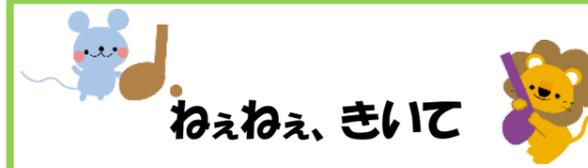
※場所:高齢者福祉総合施設マザアス東久留米駐車場

東久留米市氷川台 2-5-7

※主催者:社会福祉法人マザアス 氷川台マルシェ実行委員会

※出店者(予定、敬称略)・ジンドー学園(ポップコーン)・つつじテラス(駄菓子)・しおん学園(パン)・マザアス(ジャム、漬物(販売代行)、水耕レタス(販売代行))・野島農園(野菜)・お花(マザアスボランティア)・ヨーヨー(エアドーム遊び場)

・Cafe ふわっとん(パウンドケーキ) 皆様、是非お立ち寄りください♪



## ねえねえ、きいて

生活支援員 鈴木 麻椰

いつも地下の運搬や荷物運びなどお手伝いをして下さるIさん。友達を地下へ誘う時は、「〇〇さ〜ん、行こう！」と名前を優しく呼び、頭を撫でる姿があります。とても大好きな様子が伝わって来て、ほっこりしています！



## キラリ☆と光るこの一枚



お花見会はいにくの雨でしたが、笑顔は太陽のように輝いていました〜  
(吉井 友美)

## 空間づくり

私事ではありますが、去年の9月頃から一人暮らしを始めました。一人暮らしをきっかけに家具の配置やインテリアにこだわり、自分にとって居心地の良い空間づくりをするようになりました。実家暮らしの際には全く興味の無かった空間づくりにここまで熱中できる自分に驚きましたが、新たな楽しさに気づくことができました。また自宅で快適に過ごせるようにすることで、より仕事とプライベートのメリハリがつかえました。

この経験を通して、環境の変化に伴う心身への影響の大きさを実感しましたが、現場におけるご利用者の環境設定にも同じことが言えると思いました。活動によって空間を分けたり静かな場所を提供したりと、ご利用者の置かれる環境をより良くすることで、モチベーションの向上につながります。普段の活動も漫然と行わず、細かな配慮によりご利用者にとって快適な環境を提供し、気持ちよく活動に取り組むためのアプローチを欠かしてはならないと感じました。

生活支援員 石澤 泉

# フォトニュース ～4月の様子～

## ♪お花見♪ at 航空公園

例年にない生憎の空模様でしたが、皆で楽しく過ごすことができました！



## ライフマネープラン

新年度が始まり、早一か月が過ぎ去りました。新社会人にとってはあっという間だったと思われ  
ます。環境が変わり、新しく覚えることも増える中、様々なプレッシャーと戦っていると思いま  
すが、仕事人生はここから40年。長い道のりになるので、ゆとりを持てるような働き方が望ましいで  
すね。

働き方と言えば、個人的に考えさせられる出来事がありました（ここでは詳細は控えさせてくだ  
さい）。一昔前は終身雇用で就職した会社に定年まで働くことが普通でした。物価も今ほど高くな  
く、給料も年々上がっていったと聞いています。一つの会社で働き続けることが人生において一番  
の安全策だったのかもしれませんが。

私の働く理由のひとつに、“給料”を得る事が挙げられます。今の時代、お金を得る方法は働く事  
以外でも考えられますが、テレワークの拡大により、投資や副業にも手を出しやすくなっており、  
それらを駆使し、早期退職を実行している人もいます。

早期退職が目的ではありませんが、人生において起こりうる問題にはあらかじめ対応策を考  
えておきたいし、突如として起きてしまった問題には、対応するための必要なお金も考えないといけ  
ないと思います。一方で、早いうちからの資産形成も重要ですが、将来が不安だから“今”を我慢し  
て、貯金をする事は苦しい事です。周囲の人と比べて自分は楽しんでない、お金があればと思う事  
があると、今働いている仕事にも影響が出ます。

“卵が先か、にわとりが先か”のような問題ですが、急にお金が降ってくるわけではないので、  
やはり貰える給料で資産形成を考えるしかありません。自分が選んで就職した会社ですし、仕事の  
質も上げたい。でも質を上げれば給料が上がるという保証はない。なので、若いうちから貰える給  
料で、将来の資産形成を考えていくことが、一番の方法なのかもしれません。

今日が人生で一番若い日！今からできる事をコツコツと行っていくことが、人生の幸福度を高め  
る方法なのかもしれません。

フロア支援部部长 土橋 龍介



新社会人としての自覚を持ち、基  
本的なマナーやルールをしっかり  
身に着けたいと思います。日々  
の業務に真摯に取り組み、先輩  
方から多くを学びながら一日  
でも早く龍鳳の一員としてご利用  
者に貢献できるように努力して  
まいります。 中島 音



新入職員の紹介です。  
どうぞよろしくお願いいたします！

法人基本理念の「自立と社会参  
加の援助」ということを前提に、  
ご利用者との良い信頼関係を築  
くことを第一に考えて動こうと  
思います。その上で一人の支援  
者としても人間としても成長し  
ていきたいです。 鈴木 理斗

前職は通所施設の生活支援員と  
して働いていました。入所施設  
での勤務は初めての経験です  
が、一日ずつでも学び、少し  
でも早く支援に結び付けられ  
よう成長していきたいと思っ  
ております。 馬場 翔哉

大学病院の小児科の看護師とし  
て、様々なご家族や患者さん  
との出会いから障害者の看護  
に興味を持ちました。皆様と  
関わりが持てること、とても  
嬉しく思っております。よろ  
しくお願いします。 渋谷 英恵

## 「はたらく」と向き合う

この度6年間勤務していたこぶしを離れ、4月から清瀬事業所に異動となりました。こぶしとは  
雰囲気も支援も仕事内容もガラッと変わり、覚えることだらけで頭がパンクしそうですが…色  
々なことを吸収しながら業務をこなす日々を送っています。

さて、清瀬事業所は就労継続支援B型の施設です。私たちが働いて給料をもらっているよ  
うに、利用者さんも働いて工賃をもらっています。利用者さんにとって「働く」とは何か？ど  
ういう意味をもたらしているのか？今はまだハッキリとした答えは見つかりません。それ  
でも、利用者さん一人ひとりが何のために働きたいのか、支援や関わりを通して目的・や  
りがいを一緒に探していけたらと思います。

日頃の作業での「できた！」を大切に、そして、「できた！」が増えるように。利用者さん  
の「はたらく」に全力で向き合い寄り添える、そんな清瀬事業所の一員になりたいと思いま  
す。

生活支援員 江寫 響